

令和5年度 第1回体力向上ステップアップミーティング報告

開催期間	令和5年6月6日(火)、13日(火)
場 所	奈良県産業会館、田原本青垣生涯学習センター
内 容	講義1 「事故0、水泳大好きっ子の増加を目指した水泳指導」 講師 平群町立平群小学校 教諭 水野達啓 氏 講義2 「小学校体育科水泳運動系の指導について」 講師 県教育委員会健康・安全教育課 指導主事 米川奈緒 講義3 「児童生徒の心肺蘇生について」 講師 奈良県広域消防組合警防部救急課 課長 吉井克昌 氏

講義1 「事故0、水泳大好きっ子の増加を目指した水泳指導」

運動が苦手な児童に対する水遊び・水泳運動の授業づくりについて、「浮く」「進む」「呼吸する」の観点から具体的な学習活動を動画をまじえて紹介しました。昨年度実施した実技研修の内容の理論的な理解を図りました。

講義2 「小学校体育科水泳運動系の指導について」

小学校学習指導要領の主旨に則った指導内容と具体的な学習活動を紹介しました。また、安全な実施に向けた日常の施設管理と水質管理について伝えました。

講義3 「児童生徒の心肺蘇生について」

学校管理下における危機管理について、動画をまじえて紹介しました。改善が必要と感じれば声をあげること、組織的な危機管理意識を日常的に共有することの重要性、必要性について伝えました。

【参加者アンケートより】

講義1

～小学校・義務教育学校(前期課程)教員～

- 水泳の初歩として「息継ぎ」は、大切なことだけど多くの人がそこに時間をかけていないと感じています。息がでない、呼吸ができないが、鼻から水とともに吸うなどが初心者のパニックになると思うので、やはりそこは大事にしていかななくてはいけないなと思いました。「ゆっくり」の確認はまた、授業等でも子どもたちに伝えていこうと思います。
- 単純に「浮く」という動作においても浮力や体の構造をきちんと理解し、児童の困り感に寄り添うための知識を蓄えることができた研修でした。児童が苦手とするポイントと指導のポイントをわかりやすく動画もまじえて解説してくださったので、自校でも共有していきたいと思います。
今回の知識を学校で一貫してアウトプットできるようにし、1人でも多くの児童に水泳を楽しいものと感じてもらえる水泳学習を目指したいと思います。
- 水泳指導と言われれば泳力をつけないといけないと感じがちですが、3年ぶりの水泳指導ということも考えつつ、水に親しむことから始めることが大切。またその方法についても教えてもらうことができた。さっそく水泳指導に活かしていきたいと思う。
- 水泳で「浮く」「進む」「呼吸する」を児童ができるようにするために教師にできるアプローチを知ることができた。
同じ言い方でも言葉がけ1つで児童への伝わり方が変わることを学んだ。

～中学校・義務教育学校(後期課程)教員～

○水泳運動が苦手な生徒に対しての手立てを学ぶことができた。指導する際、科学的な知識(抵抗力、浮力)等を踏まえて指導するためにも、本研修に参加したり、教材研究をしたりする必要があると感じた。水中の呼吸の仕方を指導するのが困難に感じていたので、まずは陸で呼吸の仕方を指導する方法を学べてよかった。本単元に関わらず、スモールステップに心掛けて指導していきたい。

○自分の引き出しの中にはない、指導方法などもたくさんあり、非常に参考になりました。

水中で息を吐き切ることやゆっくり動くことなど、口ではたくさん伝えてきたつもりでしたが、いざやってみるとできない子ばかりで大変苦勞していました。今回の、講義を聞かせてもらって、そのことを体感できるような練習方法や指導方法を知ることができ、非常に有意義な時間になりました。

講義2

～小学校・義務教育学校(前期課程)教員～

○コロナ禍で、従来どおりの水泳学習を実施できていないことを踏まえ、子どもたちが安全に学習できるよう、低・中・高学年で学習する内容を柔軟に考えていく必要があるとわかりました。また、日々の水質管理も、学校の果たす責任であるということを改めて実感しました。責任をもって、取り組んでいきたいと思えます。

○水泳の授業づくりの考え方について理解することができました。水泳は、習い事としてスイミングを習っている児童もいて、児童の力に差が出てくるものでもあると思うので、得意な児童と、水泳が苦手な児童双方に配慮した指導が必要であるとわかりました。また、水泳指導にあたっては、水質管理などの環境整備もとても重要であると改めて感じました。水位や塩素濃度、ボルトやねじなど、基本的なことをもう一度点検し、児童が楽しく安全に水泳学習が行えるようにしたいと思いました。

○低学年から高学年までの水泳指導の流れがよくわかりました。特に、低学年の児童の学習について、「遊びに夢中になっている」感覚にさせ、実際にはどんどん水に親しんでいっている状態を作り出すことが大切だということがわかりました。水が顔にかかることが苦手な児童についても考えることができました。水泳指導では、つつい今までの3年間を取り戻そうと指導を急いでしまうことになりかねないので、本日このような機会をいただけて良かったです。

○水泳が苦手な子どもの気持ちを考えて指導することが大切であると学びました。子どもに寄り添いながら、「できた」を積み重ねられるよう指導していきたいと思いました。水の中での「遊び」を通して、水に慣れる・体を動かすことを工夫しながら指導できる材料を頂いたような気がします。

～中学校・義務教育学校(後期課程)教員～

○水泳の授業づくりについて学ぶことができました。子ども達が安心して水泳を楽しむことができるようにするためには、しっかり教材研究を行い、水泳の授業準備に努める必要があると感じました。

○小学校での水泳授業の内容や取り組みが分かり、中学校の授業にどのように繋げていけばいいかを考えることができました。

講義3

～小学校・義務教育学校(前期課程)教員～

○学校管理下での危機管理について学び、緊急事態発生時の対応の仕方だけが重要ではなく、救急車が来るまでに AED や心臓マッサージなどをどれだけ迅速に対応できるかも重要であることを学びました。また、「起こったらどうするか」だけでなく「起こらないようにどうするか」という意識も常にもち、どのような事故も目の前で起こりうると考え、学校管理下での安全面について不安と思ったところは共有し、組織的に危機管理していく必要があると感じました。

○実際に学校管理下で起こっている事故があるという実感がまだまだ足りていなかったように思う。心肺蘇生法の研修等は行っているが、いざ目の前で起こったときできるのか不安なところである。しかし、目の前にある生

命を救うことができるのは、目の前にいる自分であるということを中心に留めておきたいと考える。また、今日の研修を受けた自分だけでなく、学校全体として考えていきたい。

○基本的な講習などはもちろん毎年行っていますが、それだけでなく自分たちの危機意識が何より大切なことだと改めて感じました。迅速な事後対応をとることができるようにマニュアルなど常に学校全体で共有していくことが大切だと再確認できました。

また、事後対応だけでなく危機管理意識を常に高く持ち、事故などを起こさないようにすることもこれから意識していかなければならないと学びました。水泳学習以外でも、学校の様々な場面での危機管理を学校全体で意識していくことを呼びかけていこうと思いました。

○救急対応の場面は、自分の周りでは起こらないと思うのではなく心構えを常に持つておくことが大切だと改めて感じることができました。実際の救命の事案の話聞き、危機意識がとても高まりました。もしも起こったときのシュミレーションが大切。プールは事故が多いという意識を持って授業に臨みたい。情報共有を校内で実施して安全管理に努めたい。

～中学校・義務教育学校(後期課程)教員～

○実際のデータや数字などを提示していただき、非常に分かりやすい講義でした。また、動画の内容も非常に考えさせられるものであり、改めて学校側の危機管理能力の大切さを実感させられる内容でした。講師の先生からもありましたが、水泳の授業が始まるから、心肺蘇生の方法や学校の危機管理に関することを意識するのではなく、平日頃からしっかりと意識していきたいと感じました。

○迅速な対応がどれほど大切かを感じさせられた。心肺蘇生に関する職員研修を実施するので、迅速に対応する力を身に付けていきたい。教職員間の連携の必要性を学ぶこともできた。

参加者内訳

